

「緑の募金」趣意書

「緑の募金」は、昭和 25 年に戦後の荒廃した国土に緑を取り戻す国土緑化運動として発足いたしました。以来、本県では多くの県民の皆様のおかげの下、当緑化推進委員会が募金活動を展開してまいりました。ご寄附いただいた募金は、森林整備、学校・公共施設の緑化や次代を担う緑の少年団の育成などに使われ、県内の緑化推進に大きく貢献してきました。また、新潟県が 2001 年にスタートさせた「にいがた緑の百年物語県民運動」も加わり、当緑化推進委員会の活動推進に大きな役割を果たしております。

さて、21 世紀に入ると、地球規模での環境破壊や地球温暖化が顕在化してきたことから、二酸化炭素を吸収し、温暖化を防止するとともにあらゆる生物の活動の場である森林や緑は、大きな存在感を示し、脚光を受けました。私たちの身近にある森林は、命の源である水を育み、私たちの住む県土を保全し、災害から私たちの生活を守ってくれるかけがえのない財産です。また、人類共通の財産であるこれらの森林・緑を守り育てるため、21 世紀の百年をかけて 22 世紀へ「緑の遺産」として贈る「にいがた緑の百年物語県民運動」へ、企業・団体、森林ボランティアや緑の少年団など多様な県民の皆様が参加し、主体となって、森林づくり・緑づくりに取り組んでおります。

一方、本県における震災や豪雨災害など多くの自然災害の被災地にも、継続的な緑の復興支援を推進しております。また、大成功のうちに閉幕した第 65 回全国植樹祭新潟県大会は、県民一人ひとりが森林・緑づくりなどの緑化活動に取り組む気運を、あらためて、呼び起こしてくれました。県内各地で展開する緑化活動を大切に育て、支えるには、「緑の募金」の一層の拡大が必要です。当緑化推進委員会は、平成 29 年度の本県の募金目標額を 7,000 万円に設定し、今年度も「緑の募金でふせごう地球温暖化」をスローガンに「緑の募金」運動を積極的に実施し、「植える緑化から使う緑化」を掲げ、循環型社会の実現を目指し、県民参加の森づくりを推進してまいります。

皆様におかれましては、このような「緑の募金」の趣旨をお汲み取り頂き、この運動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 4 月



公益社団法人 にいがた緑の百年物語緑化推進委員会

副理事長 中川耕平

